



前橋工科大学 web magazine vol.1

—メイビット—  
**Maebit**

—真に地域に根差した公立大学へ—

**CONTENTS**

- 学長インタビュー
- 地域との活動
- 令和2年度新任教員紹介
- 学生クラブ紹介

## Chapter 1

# 学長インタビュー

前橋工科大学 Web マガジン「メイビット」創刊にあたり、本学の星和彦学長に、前橋工科大学の今後について、お話を伺いました。



### — 前期を振り返り、本学の今年の状況はどうでしたか？

1月のセンター入試のとき、「コロナウイルス」という言葉が登場し、受験生への対応に気を配るよう文科省から注意がありました。しかし、その後の展開のような状況になるとは、正直その頃考えていませんでした。

学位記授与式はかろうじて卒業生たちとともにその場を作りましたが、つづく入学式は中止。そのあと大学のイベントはすべて中止。授業についても一月遅れで、遠隔授業で開始しました。これで教育と研究の場が成り立つのか、私自身大きな不安と葛藤を抱えながらでしたが、教職員の努力と協力、そして、学生の理解と対応により、6月末からは対面授業に移行して、どうにか前期の試験まで済ませ、後期に入りました。

### — 後期については、どのように考えていますか？

後期は対面授業で進めますが、入試など前期とは異なるスケジュールとなるので、注意が必要です。しかし、人間の緊張はいつまでもつづくというわけではありません。これまでの努力を無にしないようにやっていかななくてはならないと思っています。

### — コロナウイルス感染症への対応については、大学はどのように対処しましたか？

学生が大学に来られないということで、教育が成り立たなくなっちはいけませんので、これまで経験していなかった遠隔授業という形態を5月から始めました。ある程度経験されていた教員もいらっしまったので、教員が教員にノウハウを教授するなどの準備、事務局の体制の構築、学生への周知、アプリケーションなどの準備などをして臨みました。

100パーセント完璧にとはいかなかったと考えていますし、混乱もあったと思います。しかし、学生、教職員の、学びたい、教えたいという意志の通ずるところで遠隔授業は成立したのではないかと、思っております。

## — 教育的な問題では、どんなことがありましたか？

より問題を少なくできるようにするためには、環境整備など課題はありますが、遠隔授業による教育的な成果は収められたと、教員もまた学生も感じていると思います。

一方、これまでの対面授業だけでは見えなかった、教育の問題点をいくつも知ることができました。その意味では、こうした経験を加えて、特に学ぶ人にとってより意味のある教育が醸成されていくのではないかと感じています。



オンライン授業の様子

## — この状況から何を学ぶべきでしょうか？

コロナ感染症の引き起こしていることは、病気と人間という関係では医療の問題ですが、様々な工夫で乗り越えていこうと考えれば人間力の問題であるといえるのではないのでしょうか。個々人でできることには限界があります。大学なら学生と教職員、地域なら住民同士、そうして取り組んで方向を見つける、そのようなチャレンジであると思います。コロナ「禍」という言葉がよく使われますが、禍という被害者意識で語ることに、私自身は抵抗があります。医療的にはもちろんそうですが、これは人間に与えられた、乗り越えるべき課題である、と思うからです。例えば、やらなくてはならず始めた遠隔授業ですが、その結果いままで認識していなかった教育の課題が見えてきました。大切な気づきをむしろコロナウイルスは与えてくれたのかもしれない。

## — 今後の課題については、どうお考えでしょうか？

コロナウイルス対策と並行して、大学は学科再編にも取り組んでいます。社会と同様、大学はいつまでも変わらない、ということはありません。様々な変化にどのように対応していくかの試行錯誤から、その先を社会とともに築いていかななくてはなりません。新しい姿の提示は、大学の可能性の表現であり、その取組みを延ばすことにコロナウイルス感染症を理由にはできません。是非とも方向を定め、実現を図りたいと考えています。





## Chapter 2 地域との連携

## 群馬トヨペット株式会社と 包括連携協定を締結

令和2年6月10日、公立大学法人前橋工科大学と群馬トヨペット株式会社は、車を通じた社会貢献に協力して取り組むため、包括的連携協定を結ぶことで合意し、調印式を行いました。

今後、「人と車が共生する未来の推進」を軸に、教育・人材育成、学術研究、地域の観光・産業の振興及び地域社会の活性化への貢献など、さまざまな分野で連携していきます。

### 新たな価値ある取り組みを

### 地域から必要とされる存在に

大学にとって地域貢献は、教育と並んで非常に大切なものです。

今回の協定で、心強いパートナーを得ることができました。金融機関を除く民間企業との連携協定は初めてであり、大変楽しみにしております。

今後、本学の行う地域貢献事業や共同研究など、様々な分野で連携を進め、新たな価値ある取り組みが実現できると確信しております。

現在、自動車業界は100年に1度の大きな変革期です。暮らしにおいて、車は必要不可欠な物であるからこそ、我々はよりよいサービスを提供していく必要があると思います。

今回の協定をきっかけに、互いの持つ資源と知見を活用した地域の活性化と人材育成につながる活動を行い、これまで以上に地域から必要とされる存在になっていかなければならないと考えます。



公立大学法人前橋工科大学  
理事長 宮下 雅夫



#### 群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社  
代表取締役社長 大山 駿作 様

## 群馬トヨペット×前橋工科大学

包括連携協定締結に先行して、地域・交通計画研究室(社会環境工学科・森田教授)では共同研究をスタートしています。

同研究室は、昨年度の「道の駅」学生コンテスト(国土交通省主催)において、『むら・ひと・しごとの拠点へ あぐりーむ昭和』を提案し、奨励賞を受賞しました。これは産(群馬トヨペット)・官(昭和村、群馬県)・学(大学)が連携し、道の駅「あぐりーむ昭和」で販売する新鮮な農産物を都市部でも販売し、農村と都市の交流を促進しようというものです。これにより、昭和村のPR、農産物の価値の向上、人的交流の促進、雇用の創出などの効果が期待できます。プロジェクトの第一弾として、ことしの8月には、旬のトウモロコシなどの販売を群馬トヨペットの店舗で行ったところ、たくさんの方にお越しいただきました。採れたての農産物を都市部にお届けするとともに、来場して下さった皆さんが昭和村に足を運んでくださるきっかけづくりができたと思います。



学生による道の駅の調査

## 「道の駅」を活用した 交流促進プロジェクト

# 人と車が共生する未来に向けて

# 動き出しています

## コロナ後の交通様式と 生活意識を考える



産官学の合同会議

上記のプロジェクトと並行して、新型コロナウイルス感染期における交通生活と生活意識の変容に関する研究も行っています。

ウイルスを封じ込めるまでのウイズコロナ期、ウイルスを制御できるようになるアフターコロナ期へと移行する中で、市民の外出行動や日常生活の変化を調査し、将来の生活様式を明らかにします。そして、新しい時代の人と車が共生する未来を考えていきます。

## デザインを理解する

### 楽しさ伝えたい

令和2年4月より赴任しました井上尚久です。音・振動のコンピュータ・シミュレーションを用いて、材料音響性能・室内音場・騒音伝搬の数値予測や、建築音響測定の精度・正確度向上に関する研究を行っています。

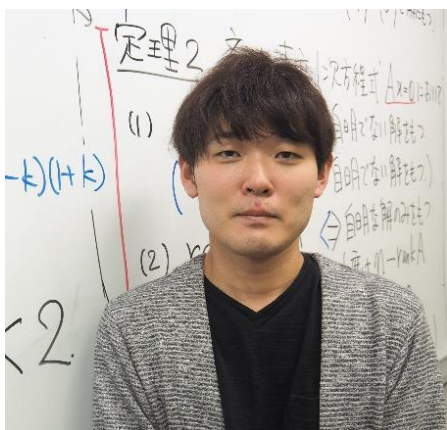
音響設計のための基礎データの拡充・精緻化を通して、より良い音環境の創出を目指しています。建築光・音環境の基本を教える中で、物理現象のメカニズムからデザインを理解する楽しさ・重要さを伝えたいと思います。



建築学科  
井上 尚久 講師

基礎教育センターに数学教員として赴任しました矢口義朗です。2つの図形がハサミと糊を使わず変形し合えるとき、それらは同相であるといいます。2つの図形が同相かどうか調べる学問を位相幾何学といいます。私はその一分野である結び目理論を勉強・研究しております。

数学は感覚的な説明の曖昧さを補填する共通言語だと思います。感覚的な部分と厳密な部分、両方大切にしながら講義を行っていく所存です。よろしくお願い申し上げます。



総合デザイン工学科  
矢口 義朗 准教授

## 感覚的な部分と厳密な部分

### それぞれを大切に講義します

## Chapter 3

## 令和2年度 新任教員紹介



### 学生の立場に 寄り添える教員に

総合デザイン工学科  
赤間 章英 助教

令和2年4月より赴任しました赤間章英です。

これまでヒトの視覚認知に関する研究をしており、色使いが印象に残る図形の特徴を明らかにしてまいりました。これからは、ヴァーチャルリアリティ(VR)空間への没入時に体感する、臨場感の認知メカニズムの解明に取り組む所存です。

昨年まで私自身が学生の身であったことを活かし、学生の立場に寄り添える教員として努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

# 学生クラブ紹介

体育系と文科系合わせて18の部活動、11のサークルが精力的に活動しています。  
メイビットではその一部を紹介していきます！  
(残念ながら今年は、コロナ禍により活動ができないため昨年の様子を掲載しています。)

学生自治会の活動内容は、簡単にまとめるとイベントの企画運営、部活サークルの統括です。例年行っている新入生歓迎会や翌檜祭(学園祭)はもちろん、毎年さまざまなイベントを企画しています。部活・サークルの予算案や事業計画などに目を通し、活動が維持できているか確認なども行います。また、翌檜祭は、大学でも一大イベントで、学生自治会総出で半年以上かけて準備を進め、10月下旬の2日間、盛大に盛り上げます。様々なイベントを通して、たくさんの仲間と有意義な大学生活を送っています！

## ストリートダンス部

BABAKING'S



翌檜祭を盛り上げよう！

## 学生自治会



(昨年の活動の様子)

こんにちは！ストリートダンス部  
BABAKING'S です！

私たちは週に4日体育館の2Fトレーニングルームで練習しています。現在3つのジャンル(Break, HipHop, Girls HipHop)があり、部員約20名で活動しています。部員のほとんどが大学から始めた人たちばかりなので、経験者の人ももちろん初心者の人もたくさんいます。

BABAKING'S のInstagramのアカウント(@babakings\_m.i.t.)もあるのでぜひフォローをお願いします！

(昨年の翌檜祭の様子)